

日本脳炎予防接種についての説明書

平成 23 年 5 月
倉敷市保健所保健課

日本脳炎とは

日本脳炎ウイルスの感染によっておこる中枢神経（脳や脊髄）の疾患です。ヒトからヒトへの感染はなく、ブタなどの動物の体内でウイルスが増殖したあと、そのブタを刺したコガタアカイエカなどがヒトを刺すことによって感染します。100 人から 1000 人の感染者の中で、1 人が発病するとされています。

流行は西日本地域が中心ですが、ウイルスは北海道など一部を除く日本全体に分布しています。

この地域で飼育されているブタにおける日本脳炎の流行は毎年 6 月から 10 月まで続きますが、この間に 80% のブタが感染しています。最近では、毎年 10 人程度が発症しています。

予防接種の目的

日本脳炎は発病した人のうち、約 15% が死亡、約 50% が神経の後遺症を残すといわれており、幼少児や老人では死亡の危険が大きくなっています。

このため、日本脳炎の発生及びまん延を予防することを目的に、予防接種を実施しています。

乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン

このワクチンは、H21 年 6 月に発売されたワクチンで、日本脳炎ウイルスを Vero 細胞（アフリカミドリザル腎臓由来株化細胞）で増殖させ、得られたウイルスを採取し、不活化したものです。

副反応

乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンについては、製造販売業者が重篤な副反応の情報を速やかに収集・解析し、その評価結果を医療機関等へ情報提供することとなっており、調査結果はこれからとなります。

重い副反応が起こった時の補償について

予防接種法に基づく予防接種により疾病、障害、死亡等の健康被害を生じた場合には、予防接種健康被害救済制度によって、医療費の支給、障害年金の支給等が行われます。なお、救済制度の対象となる健康被害は、厚生労働大臣が予防接種と疾病・障害等との因果関係を認定したものに限ります。